

限定出版!!

KA-2005-21/September 2005

ダニエル・レン教授／佐々木恒男教授 共同編集

# 経営学 知の遺産

## Intellectual Legacy of Management Theory

Co-edited by *Emeritus Prof. Daniel A. Wren, Oklahoma University*  
& *Prof. Sasaki Tsuneo, Aomori Public College*

発行元 Pickering & Chatto Publishers, London／発売元 極東書店

第 4 回配本

在庫/好評発売中!!

### Series 3: Henri Fayol and Process School

#### 「ファヨールとプロセス・スクール」全7巻

7 volumes. 2004 [ISBN 1-85196-798-2] <K05-690>

#### Volume 1

**Part 1:** Fayol, H., *Industrial and General Administration*. Trans. by J. A. Coubrough. Geneva, London, Sir Issac Pitman & Sons, Ltd., 1930, 84 pages., *General and Industrial Management*. Trans. by C. Storrs. London, Sir Issac Pitman & Sons, 1949, 110 pages.

With General Introduction by Sasaki Tsuneo. ca. 200 pages.

ファヨール著『産業ならびに一般の管理』[bound with]

**Part 2:** Wren, D. A. & Sasaki, T. (eds.), *Fayolism: A Selected Papers of Writings on Fayol*. With an Introduction by D. A. Wren. London, Pickering & Chatto, 2003. Total pages about 200. (See next page)

レン／佐々木共編『ファヨリズム：論文集』

- 1) Fremenville, Charles de, Henri Fayol: a great engineer, a great scientist and a great management leader, *Bulletin of the Taylor Society*, vol. 12, 1927, pp. 346 – 51.  
ドゥ・フレマンヴィユ著「偉大なる技師にして科学者、そして経営リーダーであるファヨール」
- 2) Breeze, J. D., Henri Fayol: management pioneer, unpublished MBA thesis, 1980, pp. 6 – 22.  
ブリーズ著「マネジメント・パイオニアであるファヨール」
- 3) Sasaki, T., Henri Fayol's family relationships, *Journal of Management History*, vol. 1, no. 3, 1995, pp. 13 – 20.  
佐々木恒男著「ファヨールの家族関係」
- 4) Fayol, Henri, The important of the administrative factor, in E. Dale ed., *Readings in Management: Landmarks and New Frontier*, 2nd ed., McGraw-Hill, 1970, pp. 148 – 49.  
アンリ・ファヨール著「管理要素の重要性」
- 5) Breeze, J. D., The origin and content of the “Resumé de la doctrine administrative”, unpublished MBA thesis, 1980, pp. 44 – 63.  
ブリーズ著「<管理論要説>の起源と内容」
- 6) Breeze, J. D., Analysis of the “Resumé de la doctrine administrative”, unpublished MBA thesis, 1980, 122 – 37.  
ブリーズ著「<管理論要説>の分析」
- 7) Pearson, N. M., Fayolism as the necessary complement of Taylorism, *The American Political Science Review*, Vol. 39, 1945, pp. 68 – 80.  
ピアソン著「テイラリズムの必要な補完物としてのファヨリズム」
- 8) Brodie, M., Henri Fayol: Administration Industrielle et Générale – a re-interpretation, *Public Administration*, vol. 40, 1962, pp. 311 – 17.  
ブロディー著「ファヨールの主著再解釈」
- 9) Breeze, J. D., A discussion of the translation of some of Fayol's important concepts, unpublished MBA thesis, 1980, pp. 64 – 99.  
ブリーズ著「ファヨールの重要な概念のいくつかについての議論と翻訳」

- 10) Breeze, J. D., Henri Fayol: a new definition of “administration”, Proceedings of the 40th Annual Meeting of the Academy of Management, 1980, pp. 110 – 13.  
ブリーズ著「ファヨールの＜管理＞の新定義」
- 11) Breeze, J. D., Administration and organization of the commercial function by J. Carliz, Proceedings of the 42nd Annual Meeting of the Academy of Management, 1982, pp. 112 – 16.  
ブリーズ著「キャルリオズによる商業機能の管理と組織」
- 12) Reid, D., Fayol: from experience to theory, Journal of Management History, vol. 1, no. 3, 1995, pp. 21 – 36.  
リード著「ファヨール、経験から理論へ」
- 13) Wren, D. A., Henri Fayol: learning from experience, Journal of Management History, vol. 1, no. 3, 1995, pp. 5 – 12.  
レン著「ファヨール、経験からの学習」
- 14) Fells, M. J., Fayol stands the test of time, Journal of Management History, vol. 6, no. 6, 2000, pp. 345 – 60.  
フェールズ著「時の検証を受けるファヨール」
- 15) Carroll, S. J. & D. J. Gillen, Are the classical management functions useful in describing managerial work?, Academy of Management Review, vol. 12, no. 1, 1987, pp. 38 – 51.  
キャロル／ギレン共著「管理労働を説明するのに古典的職能論は役に立つか」
- 16) Wren, D. A., Henri Fayol as strategist: a nineteenth century corporate turnaround, Management Decision, vol. 39, no. 6, 2001, pp. 475 – 87.  
レン著「戦略家としてのファヨール、19世紀の会社の方向転換」
- 17) Wren, Bedeian, & Breeze, The foundations of Henri Fayol’s administrative theory of the State, Management Decision, vol. 40, no. 10, 2002, pp. 906 – 18.  
レン／ベディアン／ブリーズ共著「ファヨールの行政管理論の基礎」
- 18) Sasaki, T., The Comambault Company revisited, Journal of Economics, Nihon University, vol. 68, no. 4, 1999, pp. 113 – 28.  
佐々木恒男著「コマンポール社再訪」
- 19) Sasaki, T., La théorie de Fayol au contract du Japon, in J.-P. Peaucelle ed. Henri Fayol: inventeur des outils de gestion, Paris, Economica, 2003, pp. 257 – 266.  
佐々木恒男著「日本におけるファヨール理論」
- 20) Peaucelle, J.-P., Henri Fayol et la guerre de 1914, Revue Française de Gestion, Sept. 2001, no. 136, pp. 121 – 34.  
ポーセル著「ファヨールと第1次世界大戦」
- 21) Reid, D., Genèse du Fayolisme, Sociologie du Travail, vol. 28, 1986, pp. 75 – 93.  
リード著「ファヨリズムの起源」
- 22) Blancpain, F., Les cahiers inédits d’Henri Fayol, 1973.  
ブランパン著「ファヨールの未刊のノート」
- 23) Brodie, M. B., Fayol on Administration. London, Lyon Grant and Green, 1967, 50 pages.  
ブロディー著「ファヨールの管理論」
- 24) Breeze, J. D., Henri Fayol’s Centre for Administrative Studies, Journal of Management History, vol. 1, no. 3, 1995, pp. 37 – 62  
ブリーズ著「ファヨールの管理研究所」

**Volume 2:** Davis, R. C., *The Principles of Factory Organization and Management*. Harper & Row, 1928, 449 pages.

デイヴィス著『工場の組織と管理の原則』

**Volume 3:** Mooney, J. D. & Reiley, A. C., *Onward Industry!: The Principles of Organization and Their Significance to Modern Industry*. Harper & Row, 1931, 564 pages.

ムーニー／レイリー著『前進する産業：組織原則と近代産業にとってのその意味』

**Volume 4:** Urwick, L., *Management of Tomorrow*. Nisbet and Co., 1933, 205 pages. / *Scientific Principles and Organization*, AMA, 1938, 16 pages. / *The Elements of Administration*. Harper & Brothers Publishing, 1943, 132 pages. total pages 353 pages.

アーウィック著『明日の経営／科学的原理と組織／管理の原則』

**Volume 5:** Gulick, L. & Urwick, L. (eds.), *Papers on the Science of Administration*. Institute of Public Administration, Columbia Univ. Press, 1937, 195 pages.

ガリック／アーウィック共編『管理の科学、論文集』

**Volume 6:** Newman, W. H., *Administrative Action: The Techniques of Organization and Management*. Prentice-Hall, 1951, 483 pages.

ニューマン著『管理行動：組織と管理のテクニック』

**Volume 7:** Koontz, H. & O’Donnell, C., *Principles of Management: An Analysis of Management Functions*. McGraw-Hill, 1955, 664 pages.

クーンツ／オドンネル共著『管理原則：管理機能の分析』

【次ページの解題をご覧ください。】

# 『ファヨールとプロセス・スクール』全7巻 解題

「経営学 知の遺産シリーズ」・第4回配本は、2部全14巻からなる第2回配本「テイラー・システムと科学的管理」に続いて、テイラーと並ぶもう一人の経営学の開祖、ジュール・アンリ・ファヨールとその末裔、管理過程学派に連なる人々の代表作全7巻を取り上げた。

今回配本の第1巻には、ファヨール研究の代表的論文とファヨールの主著の2種類の英訳本を収めている。ファヨール研究は、1949年刊行の英訳本だけで済まされることが多いが、テイラー研究同様、多くの優れた英文論文があるので、マネジメント研究の深化を図るには、これら文献の読解が必要である。最初の英訳本、Coubrough 訳の刊行年は1929年とされることが多いが、正しくは1930年である。英訳本は2点ともこれまで復刻されたことがなく、とりわけ最初の英訳本は国内の大学図書館での所蔵が僅か5点で、いわば誰も見たことのない幻の図書、今日では全く入手不可能な稀覯本である。また、2つの英訳本のタイトルが **Administration** から **Management** に変化していることにも注意すべきである。イギリスにおけるこれら2つの英訳本刊行の意義と経緯については、J.L. ポーセル編著(佐々木監訳)『アンリ・ファヨールの世界』(2005、文眞堂)の第9章を参照されたい。

ファヨールの主著が英訳されたこともあって、1920年代頃からアメリカでのマネジメント研究が変わり始めた。それまでの工場現場における作業能率への関心から、企業全体の組織問題とそのマネジメントへと関心が移り始めた。その過渡期の代表作が、第2巻のラルフ・デイヴィス『工場の組織と管理の原則』である。アメリカ経営学会の創始者の一人であり、1948年に会長に就任した彼の代表作は、いうまでもなく『トップ・マネジメントの基本原則』(1951)であるが、彼の主張は当初からファヨールのそれに極めて類似している。

悲惨な1929年の大恐慌をGMの取締役として経験したムーニーは、組織の効率化によって人類の福祉を改善できると確信し、レイリーとともに、各種組織の行動に現れる組織原則を明らかにした。それが第3巻の『前進する産業：組織原則と近代産業にとってのその意味』(1931)である。本書も、その後の経営組織研究に大きな影響を及ぼしている。

ファヨール理論の全世界的な普及に貢献した最大の功労者は、イギリスのリンダール・アーウィックである。彼はまた、イギリスにおけるマネジメント研究推進のリーダーでもあった。その彼の代表作3点を纏めたのが第4巻である。ここに収めた彼の論文、“Scientific Principles and Organization” (1938)は、恐らく本書において初めて著作として日の目を見ることになった読者垂涎の文献である。

第5巻『管理の科学：論文集』は、1930年代前半辺りまでのさまざまなマネジメント研究のアプローチを取り纏めたものである。そこには、次の時代を担うヒューマン・リレーションズの初期研究の論文が早くも姿を現しており、理論の興亡の兆しが垣間見られる、極めて重要な文献である。

第2次大戦後、ファヨール理論への強い関心を引き起こしたのは Storrs による二回目の英訳であったが、理論的にはニューマンによるファヨール理論の継承と展開であった。第6巻『管理行動：組織と管理のテクニック』がそれである。そして、第7巻、クーンツ / オドンネルの『管理原則：管理機能の分析』こそ、ファヨール理論を継承する伝統的経営学、正統派経営学、管理過程学派の研究の集大成であった。

ファヨールに発する管理過程学派は、今日では陳腐な研究と見られ勝ちである。だが、会社でも役所でも、病院でも大学でも、つまりあらゆる組織の現場では、そして個人のレベルでも、管理は今日でもなお、Plan-Do-Check-Action (計画—実施—点検—実行)の手順のサイクルで行われている。実践科学志向の経営学の立場からすれば、この現実を無視することはできないであろう。

経営学史学会前理事長  
日本経営学会理事  
青森公立大学学長 佐々木恒男

(株) 極 東 書 店